



## カいは生まれたときから、貝殻をもっているの

### 生まれたときは、殻をもっていないカが多い

カいの仲間なかまは、たいてい卵たまごを産んでふえます。卵たまごを産むときの様子ようすは、カいの種類しゅるいによってちがっています。いちばん多いのは、海水中かいすいちゅうに卵たまごをほうり出すやり方かたですが、たくさんたまたまの卵たまごをかたいふくろの中なかに入れて産むとか、親おやのカいの体内たいないで少し育ててから外へ出すカかもいます。

海水中かいすいちゅうに卵たまごをほうり出す種類しゅるいのカかでは、卵たまごからかえったカかは、チョウの羽はねのような膜まくをもっていてひらひら泳ぐものや、小さいつぼに毛ちいが生えたような形かたちのものなど、種類しゅるいによってさまざまな形かたちの幼生ようせいになります。幼生ようせいには貝殻かいがらはなく、どれも水みずの中なかを泳ぎまわります。やがて、海底生活かいていせいかつをするようになると、小さな貝殻ちい かいがらができてきて、成長せいちょうとともに貝殻かいがらも大きくなり、親おやと同じ貝殻おな かいがらになっていきます。

### 生まれたときから、殻をもっているカもいる

卵たまごをふくろに入れて産む種類しゅるいのカかの中には、ふくろの中で卵たまごからかえって1か月げつぐらいくらした後あと、殻からのついた小さいカちい かたちで出てくるものもいます。イボニシのように、ふくろから、幼生ようせい（プランクトン）で出てくる種類しゅるいもいます。このカかの卵たまごが入っていたふくろが、夜店よみせなどで売られている「うみほうずき」です。

陸りくにすむカかの仲間なかまであるカタツムリは、卵たまごからかえったとき殻からをもっています。

タニシの仲間なかまは、親おやの体からだの中なかで卵たまごからかえり、外そとに生まれてくるときには貝殻かいがらをもっています。（監修・杉浦 宏）

